

第53回全日本・第52回中四国地区

中学校技術・家庭科研究大会 徳島大会 終了のお礼

11月12日から14日までの3日間、徳島市において第53回全日本中学校技術・家庭科研究大会及び第52回中国・四国地区中学校技術・家庭科研究大会（徳島大会）を開催いたしましたところ、全国各地から約700名（資料参加含む）の参加者を得て、多くの成果を挙げ、成功裡に終えることができました。

大会主催者である全日本中学校技術・家庭科研究会会長 池田敦彦様、ご来賓として臨席いただきました徳島県教育委員会教育長 佐野義行様、徳島市教育委員会教育長 石井 博 様、全産協や学会・顧問の先生方、記念講演していただきました株式会社いろどり代表取締役社長 横石知二様、指導助言者の文部科学省教科調査官 上野耕史様・筒井恭子様をはじめ、大会を支えていただいた全ての皆様に心から厚くお礼申し上げます。

さて、現在、少子化・高齢化、グローバル化の進展とともに、複雑で解決が困難な地球規模の課題が増加しております。目の前の子供たちは、将来、こうした一律の正解が必ずしも見いだせない課題と主体的に向き合い、よりよく解決し、たくましく生きていかねばなりません。そのためには、一人一人が自身に必要な知識や能力を認識し、身に付け、実生活の中で応用し、実践できるような主体的・能動的な力を学校教育の中で育むことが必要です。この意味から、知識や道具を駆使して、いろいろな条件のもとで最適な解決策を見つけ、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる技術・家庭科の重要性はより一層高まっていると確信しております。

そこで、徳島県では、技術・家庭科にとって最終的な目標である「生活を工夫し創造する能力」を「様々な問題と向き合い、（習得した知識と技術を活用して）解決する力」ととらえ、これを育むことを研究主題にすえて研究を進めてまいりました。また、この研究において、課題解決過程においておかれた状況を踏まえた最適な解決策を導き出す授業場面を設定し、これを「深く考える授業」と定義して実践することにより主題に迫ってまいりました。本大会では、このような研究内容を全体発表と8分科会の授業・発表において公開させていただきました。

また、記念講演においては、講師の横石知二様から、「自分の舞台の活かし方」と題して、このような問題解決能力の重要性を印象づける「いろどり」事業の体験談を聴かせて頂きました。

徳島県での全国大会の開催は初めてであり、このような研究でよいのか不安もありましたが、おかげさまで全国各地から約700名（資料参加を含む）もの先生方の参加をいただき、多くの質問やご意見を賜り、実り多きものとなりました。今後、本大会において皆様からいただいた、温かい激励、示唆に富む御指導・御助言等を生かし、組織をあげて、よりよい技術・家庭科教育を創造していくべく全力をつくす所存でございます。

最後になりましたが、御参会くださった皆様、本大会の運営に関わってくださった方々、長期にわたり日夜研究を推進いただいた技術・家庭科担当の先生方、大会要録・集録の作成に携わっていただいた皆様に心から感謝の意を表し、お礼のことばといたします。

第53回全日本中学校技術・家庭科研究大会 運営委員長
第52回中国・四国地区中学校技術・家庭科研究大会 運営委員長
徳島県中学校技術・家庭科教育研究会 会長

中川 隆彦